

# 瓦の歴史あれやこれや

## 会長コラム

### 孫七瓦の歴史と系図

これまで4回に渡り日本の瓦の由来とその伝わり方について述べてまいりました、いよいよ孫七瓦の歴史と系図について述べてさせていただきます。  
 瓦発祥の地ギリシャ?や、諸外国と比較して日本での改良の良さは世界でも全く引けを取らないと思います。

(日本で改良された屋根瓦が現在でも奈良市の元興寺・極楽堂の屋根で1400年以上も現存しているのを見ても解ると思います)

以前にも述べましたように日本の瓦は仏教の興隆と共に寺院建築で大きく発展しました。



清水家(孫七瓦)の家系図は、檀家寺である正光寺(北葛城郡王寺町)の過去帳によると元禄7年(1694年)ころに「**神南瓦屋七兵衛**」の文字が現れ、清水家の先祖であると伝承されています。(昔は名字が無いのですが職業と屋号があったので判別できたと考えます)

現在のところ確認できる古い記述は昭和資材帳として発刊された「**法隆寺の至寶**」(法隆寺第1008代管長 高田良信大僧正師著)の中で紹介

して頂いております。その一例をあげますと、**七兵衛**の名は天明4年(1784年)製銘の法隆寺福生院の鬼瓦に「**神南瓦屋七兵衛**」と確認出来ました。



法隆寺の瓦では、文化3年(1806年)、天保6年(1835年)等々、鬼瓦や隅巴瓦等が現存しております。



その他寺院では、信貴山成福院、某堂に延享5年(1749年)2月製作された鬼瓦が今も屋根の棟に載っております。(注..270年前に製作された鬼瓦)

この鬼瓦には和州南神南瓦師**七兵衛**作と記されています。このように令和2年現在まだ各寺院の本堂又は諸堂の屋根の上で鬼瓦の務めを200年以上も果たしている瓦もあります。



「**瓦職人の系譜と生産活動**」西連寺 匠氏(滋賀県愛荘町立歴史文化博物館学芸員) 著の中で、寺農織苑氏は生駒郡の7、8ヶ所の寺院の鬼瓦を調査し、形状や銘文から生駒郡域における鬼瓦職人の動向を特定している。  
**瓦屋七兵衛**についての記述では、生駒郡三郷町の平等寺(聖徳太子ゆかりの寺)には天保13年製(1842年)銘入りの鬼瓦が存在し、斑鳩町小吉田の吉田寺には文久3年(1863年)製銘の鬼瓦に「**七兵衛**」の銘が存在すると報告されている。また、生駒郡平群町の光明寺で、天保15年(1844年)に製作されたと思われる鬼瓦では「**孫七**」という名の瓦師の存在も確認することが出来ますと述べられています。

このように研究されている先の方や掲載されている写真からも「**神瓦七**」の名称は古くより使われていたことが分かります。

### 孫七瓦工業株式会社の 経営理念 II 目的理念

私たちは、日本建築の文化の継承と、伝統を活かした技術革新を通じて社会に貢献します。

#### 行動理念

一、私たちは、安全で安心できる快適な住まいのある暮らしを提供します。(科学性)

一、私たちは、社会に信頼される会社となり、地域社会の発展に貢献します。(社会性)

一、私たちは、共に学び、共に育ち、全社員の幸福を追求します。(人間性)

この経営理念は孫七瓦工業株式会社が継続的・計画的に社会に役立つ企業としての根本的な価値基準です。

取り上げてほしいテーマや皆様のお屋根にまつわる体験談・お勧めのカフェや奈良のお勧め情報なども随時募集しております。

まごひち瓦版は不定期発行です、バックナンバーは弊社ホームページでご覧いただけます。かわら版の送付停止をご希望の方は編集部までご連絡下さい。ご連絡と発送が前後した場合は次号より停止させていただきます。

〒636-0143 奈良県生駒郡斑鳩町神南3-13-13 孫七瓦工業(株) まごひち瓦版編集部  
 ☎ 0745-74-1218 HP <https://www.magohichi.com>